



<2018年2月21日 第2517回例会 No.53-31> 2517回例会「卓話：子どもが売られる問題」

本日の例会@大政館 坊ホール

役割分担

司 会： 小倉 裕美 会員
開・閉会点鐘： 小島 馨 会長
ソングリーダー： 清水 博雅 会員
ロータリーソング（『それでこそロータリー』）斉唱

本日のゲスト

NPO法人かものはしプロジェクト 共同代表 村田 早耶香 様
NPO法人かものはしプロジェクト 保坂 光葉 様
声 楽 家 土田 悠平 様
東京飛火野ロータリークラブ 谷 和彦 様
東京日野ローターアクト幹事 金子 裕史 君

例会進行

1. 会長挨拶：小島会長



この間の17日(土)BH事業の報告会について、今年で15回目になりますが、スタッフ、過去に就任された委員長の方々のおかげで内容的に非常に盛り上がり、充実してきた事業になったなと思いました。報告会后、ご父兄の方々とお話をする機会があったのですが、兄弟姉妹のいる方は刺激を受けて自分も行ってみたいと思う子もいたそうです。既に二回目の次年度理事会も開催されたところですが、日野ロータリークラブの宣伝も兼ねて、より盛り上げていければと思います。まだ、年度末まで4カ月の期間があります。引き続き皆様のご支援をお願いいたします。

2. 幹事報告：田中幹事

・日野市の軟式野球連盟について、新会長が就任されたため通知が届きました。
・ロータリー手帳の注文について引き続き注文を受け付けています。

各委員会等報告

1. ニコニコ

後述します。

2. 声楽家 土田 様



音楽劇『野ばらの約束』について紹介にいらっしゃいました。

本日のメインプログラム

「子どもが売られる問題」

卓話講師：村田 早耶香 様



卓話講師：

村田 早耶香 様

・NPO法人かものはしプロジェクト
共同代表

村田様は大学生の頃に売られる子どもの問題を知り、二十歳の頃、仲間と団体を立ち上げ、15年間活動されました。その取組が評価され、日経ウーマン：ウーマンオブザイヤーを史上最年少で受賞されたり、青年会議所の人間力大賞に輝いたり、各種メディアにも出演されています。2011年には東宮にて皇太子殿下とも謁見されています。

卓話内容（概要）

ロータリークラブ様には、これまで度々このような講演会の機会をいただいております。さて、私が取り扱っているのは、児童労働の中でも最悪の形態で、『児童買春』という、子どもたちが騙されて売春宿で働かされているという問題で、それを解決するため日々活動を行っております。大学の頃から15年間活動を続けており、大学を卒業して

からカンボジアに行き事務所を作り、職業訓練所を作りました。今はインドを中心に活動をしています。

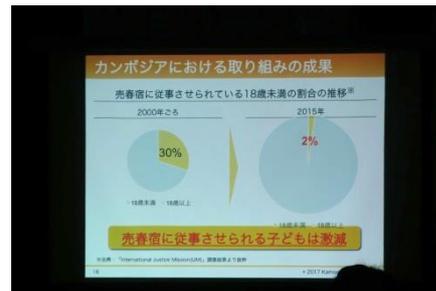
さて、子どもが売られる問題とは皆さんも聞いたことがあるかもしれませんが。発展途上国等で子どもたちが騙されて買春宿に連れて行かれ、時に虐待を受けながら働かされています。私たちが活動しているカンボジアの15年前の映像をお見せします。【映像を見ながら】売春宿に入ると14歳位の年代の子ども達が多いのですが、中には5歳くらいの子も達もいます、ここに警察官が立ち入り、子どもたちを救出しようとしています、子ども達は何が起こったのか分からずに泣いたり、叫んだりと困惑しています。この映像から、被害を受けている子の年代が様々であることがわかります。売春というのは、幼少の子にしか欲求を持たない人もいるため、先進国の人から買われ続けているのです。日本ではそうしたことをすると逮捕されますが、残念ながら発展途上国ではお金さえせば売春が可能であり、1回あたり3,000円程度で、本人が一文も得ることなく売春が行われていました。売られてきたときは1万円から10万円で親が子供を売っているそうです。その時は売春が行われるということも知りません、最終的にエイズにかかったり、もしくは虐待を受け、親が知らぬ間に亡くなる子ども達がたくさんいるのです。



こうした子ども達が世界にどれ位いるかと言いますと、毎年180万人いると言われていいます。この問題にあった子ども達は将来を台無しにされ、身体だけでなく、精神的にも大きな傷を残すこととなります。先ほど話したエイズ、虐待死もそうですが、そうした経験をするると深いトラウマを残しますし、アジアの地域では売春した人物は村八分にされ、一生結婚ができなくなる状況になるなど、社会生活そのものも奪われてしまいます。

私が行ってきた活動は子どもを「売らせない」、かつ子どもを「買わせない」活動です。まず、「売らせない」活動は職業訓練所を作ることです。子どもを売らせやすい家庭とは、非常に貧窮した農村の子どもであることがあげられます。壁もない家に住み、そこに住んでいる子どもの成長も非常に悪いと言えます。食べているのは一日1食、例えば少し味のついたゆで卵とご飯を少量だそうで、一日の必要な栄養素を満たしていないことは明白でした。このま

まですと、生活が成り立たず、子どもを売りに出さざるを得ない状況ですので、この両親を職業訓練所（特産品を作る事業所を営んでいます）で雇い、安定的な収入が入るようにする、収入が安定したら三食食べられるようになり、子どもが学校に行く余裕ができるようになります。その後お金を貯められるようになり、7年後に同じ家に訪問したところ、雨風が凌げる家が建ち、子どももしっかり学校に通えるようになっていました。我々はこのような状況の家庭を今まで220世帯程援助し、また、職業訓練所で作られた手作りのお土産の収益をだし、現地での活動資金に充てています。



しかし、こうした活動をしていても「買う」人がいれば被害者が無くなることはありません。そのため途中から子どもたちを「買わせない」活動もするようになりました。具体的には現地の警察に加害者を逮捕させるような取り組みを行いました。これはカンボジア政府と協力し、警察の指導にあたりました。警察側もこうした問題に対して何をしたらいいのかわからない、そもそも5歳の子どもが売られている現状を知らなかった人もいました。そして、被害者を保護し、加害者を逮捕するための研修と実習を繰り返し、結果、年間の逮捕件数が80件程度だったものが9年で700件に挙がりました。逮捕件数が増えると、加害者側もリスクがあると認識するため、子どもたちを「買う」ことをやめる人も増えるため、逮捕件数をあげるといことはとても効果的な対策なのです。実際に、売春宿の18歳未満の子どもである比率は2000年頃では30%だったものが2015年には2%に激減しています。0%にならないのはすっきりしないところですが、治安が良い国でも悪いことが完全に無くならないのと同じで完全に無くすことがとても難しいということです。しかしながら、限りなく0%に近く、カンボジアの状況は改善され、支援を終了してもいいと思われる状況にまでなりました。

カンボジア政府が改善にむけて制度を整備して、たくさんの方が貧困層の支援のために協力していただいた結果、15年で問題が解決しました。昔、私がカンボジアに赴いたとき、色々な人から「この問題を解決することは無理だし、解決できるとしても、貴方が還暦を迎えたころに解決しているかどうかかわからない問題なのだ」と言われまし

たが、15年でここまで改善することができたのです。そして、私たちは他の国にも活動を広げていこうと考えています。カンボジアの次に状況が悪い国というのが南アジアのインドです。ひどい所ですと、親子何代にも続けて売春を続けている子もいるとのことでした。



インドの状況をお伝えするため、一人の子のお話をします。その女の子は勉強がしたかったのですが、インドでは女性が教育を受

けても全く意味がないという風習があり、弟が学校へ行くために毎日働いていました。しかし、どうしても勉強する事が諦めきれず、8歳のとき、家出をして勉強をさせてもらえる施設を探す旅に出ました。

彼女は近くの大きな町に行き、施設を探すことにしたのですが、その町は売春等で人身売買が行われた子どもが送られる中継地点として有名な町だったのです。彼女は一人で行っているところを見つけられ、眠り薬をかがされ、気付いた時には売春宿に閉じ込められていました。そこでは、まだ幼い子どもたちと一緒に、性的な映像を見せられ、「いずれお前たちにもこうしたことをやってもらう」と言われながら生活することになりました。その時、彼女は映像の意味もやらされると言われたことの意味も分からないのですが、これからとても嫌なことが起こるということだけは感じ取り、毎日泣きながら生活しました。そんなある日、お客さんの相手をさせられることになります。泣き叫んでも誰も助けにきてはくれない、毎日殴られながら暗い部屋に閉じ込められていました。その中で、ある日暗い部屋に薄暗いですが、光が差し込む場所があることに気付きました。宿の壁がはがれ小さな穴から光が差し込んでいたのです。彼女は8歳でまだ体も小さかったため、なんとかその穴から抜け出すことができたのです。その後、警察に保護され、故郷に戻ることもできたのです。

これでようやく両親のもとに戻られると思ったのですが、汚い仕事をした自分を本当に迎えに来てくれるのかとても不安になりました。そして、いつまで待っても両親が迎えに来ることはありませんでした。その時に彼女は一人で生きていくことを決心することにならざるを得なくなりました。

その後、保護施設で生活を始め、学校にも通うことができました。彼女にとってただ一つの救いが学校に行けたこ

とです。成績は常にトップで勉強に励みました。しかし、数年間誰とも関係を持たずふさぎ込む生活を続けていました。その後、彼女はNGOが主催するダンスセラピーに出逢いました。風船を使って身体を動かして精神を癒し、自らに蓄積していった怒りや悲しみ等の感情がほどけていく感覚を持ったそうです。ダンスセラピーを通じて前向きになっていく人も多く、そうした人たちの姿を見て、彼女も前向きに生きていかなければならないと感じ、半年後には回復していました。自分自身が回復するきっかけとなったダンスセラピーを広めたいと考えるようになり、12歳で活動団体に参加を始めたのです。

その後、27歳となった彼女はダンスセラピーを提供する団体で働いており、そんな彼女と会話したのですが、初対面の



人ともすぐに打ち解け、笑い上戸で、温かい家庭で育った方なのかなと思った程です。彼女から話を聞き、今はやりがいのある仕事をして、大切な人と、5歳の子どもと温かい家庭を持ち、とても幸せだと答えていました。

インドの人身売買はルートが決まっています、問題は加害者が全く処罰されていないことにあります。人身売買のうち、認知されているもので加害者が有罪判決を受けたのは5%程度しかありません。村の中で子供を売り払った人はお金を儲け、売られた子ども達が泣き寝入りをしている状況です。

なぜこのようなことになるかということ、証拠が被害者本人の証言しかないため、被害者である子どもが証言しないと有罪判決にまでいかないからです。そうしないために、売春宿に連れて行かれた子どもを保護し、先ほど紹介したダンスセラピー等で精神を回復させます。この子どもの精神を回復させるというのはとても大切なことで、精神を回復させないと、子ども達が状況をうまく説明できない、これはひどい目に合いすぎると、精神の解離がおき、そのひどい経験を脳が喪失させてしまうからです。そうした経験



を思い出して証言させるために本人への支援が必要であり、その他、職業支援や弁護士の支援も行います。

ここでインドの状況でわかってきたのが、アメリカと同様、州をまたぐと法律が違うため、インド全体で加害者を摘発できるような体制を作り、インド政府がその法律を作



ることが必要で、今実際に着手しているところです。カンボジアと違ってインドは地域によって住んでいる人も宗教も異なるため、言語の問題ですとか、風習の違いでなかなかうまく話が進まないこともあります。しかし、その中

で色々なカーストや知識層の人も活動に参加してもらっており、過去の被害者の方々からも協力を得られるといった前向きに活動が進みつつあるため、この問題もいつか解決するのではないかと思います。

日本でも活動支援はできます。我々の活動は寄付によって成り立っているため、もしくはカンボジアでの職業訓練所で作られた土産物の購入などでも支援ができますので、今日の話に共感していただけたら、ご支援をいただけたら嬉しく思います、どうぞよろしくお願いいたします。

村田様、貴重なお話ありがとうございました！

ニコニコ報告 親睦委員会より

小島会長 2月17日(土)プリティッシュヒルズ報告会、横倉委員長はじめ関係各位の皆様御苦労さまでした。今日のはかものはしプロジェクト村田代表、保坂様卓話有難うございます。次年度理事会(第2回)も始まりまた新たな気持ちになりました。

田中幹事 小平奈緒さん、羽生君、それにさらちゃん、おめでとう!! かものはしさん卓話楽しみにしています。

西山会員 スミマセン、早退致します。週末からスーパーラグビーが始まります。日本チーム”サンウルブズ”気にしてみてください。

17-18年度 ニコニコ 合計

本日のニコニコ:	6,000円
累計	509,322円
ビジターフィー:	0円
累計	27,000円

出席報告 出席奨励委員会より

事前MU：藤林会員、成田会員、山下会員、安島会員

日	会員総数 (出席免除数)	出席総数 (免除者出席数)	MU	欠席	出席率
本日報告 (2/21)	35 (3)	22 (2)	事前4 (0)	8	76.47 %
前回訂正 (2/17)	35 (3)	17 (1)	8 + 0	8	75.76 %
前々回訂正 (2/7)	35 (3)	22 (2)	(5) + 0 + 0	7	79.41 %

(発行人：会長：小島馨、幹事：田中くに子、公共イメージ会報委員長：西山尚之/制作：東京日野RAC：金子)